

令和5年度 「確かな学力」 向上推進デザインシート

学校名	大仙市立大曲中学校
-----	-----------

学校の教育目標	一人一人が「よく生きる」豊かな学園の創造 「共働・共励」「共鳴・共感」
---------	-------------------------------------

<p><自校で育成を目指す児童生徒の資質・能力></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「よく生きよ」を自ら問い、自分の考えを広げ、深め、表現しようとする態度 ○自ら課題を設定し、課題解決に向けて他者と共働しながら新たな考えを創造する力 ○獲得した知識・技能を、実社会や実生活において課題解決に生かすことができる力

<p><目指す子どもの姿></p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを広め、深め、表現することのできる生徒 ○他者と意欲的に関わり合い、新たな考えを創造できる生徒 ○主体的に振り返り、学んだことを課題解決に生かすことのできる生徒
--

○「確かな学力」向上のための推進計画

【Plan】 「目指す子どもの姿」に基づいた研究主題及び研究の仮説

<研究主題>
 問いを發し、他者との協働を通して自ら学びを深める生徒の育成
 ~学びをつなぎ思考の活性化を促す授業の工夫を通して~

<研究の仮説>
 生徒が関心・意欲を高め、主体的に課題を設定し、その解決に向けて問いを發しながら取り組める単元・題材を構想する。そこで、ねらいに迫る効果的な学び合いを取り入れた多様な学習活動を展開し、生徒の考えをつなぐ教師のコーディネート機能を高めることで、思考力・判断力・表現力を高めることができるであろう。

また、思考が活性化する多様な授業形態や言語活動、発問の工夫、ICTの活用、振り返りの工夫などにより、生徒が自らの学びを実感し、達成感が高まり、主体的な学びを促すことができるであろう。

【Do】 「目指す子どもの姿」を実現するための研究の重点と具体的な手立て

重点①思考力・判断力・表現力を高める手立ての充実

- ・生徒が主体的に課題設定をし、その解決に向けて問いを發しながら取り組める単元・題材の構想
- ・ねらいに迫る学び合いを効果的に取り入れた多様な学習活動の展開
- ・生徒の考えをつなぐ教師のコーディネート

重点②主体的な学びを促す手立ての充実

- ・自力思考、ペアや小集団、全体での学び合いなど多様な学習形態の活用
- ・道徳の時間や学級活動での座席配置の工夫や話し合い活動の充実による学び合いの基礎の構築
- ・「研究部だより」などを基にした発問、発表、ICTの活用などについて共通理解と授業への導入
- ・「マイヒストリー」（振り返りカード）を用いた振り返りの指導の改善への活用



【Action】 改善の計画

<短期>

- ・日々の授業、研究授業、授業参観ツアー（全校）、ぶらり研（教科部）等を機会に、生徒の考えをつなぐコーディネート力の向上を図り、学び合いの活動における生徒の姿、振り返り等を基に指導の改善につなげる。
- ・毎週の研究部会を通して、研究の進捗状況を確認するとともに、重点を具体化する共通実践について共通理解を図り、具体的な取組を「研究部だより」で発信し、共有する。

<長期>

- ・長期休業期間中に教科部会を行い、授業における共通実践事項に関わる取組の成果と課題を確認し、改善策を立てる。
- ・年2回、研究推進委員会及び教科主任会を実施し、各教科等の成果と課題を共有し、学校全体の次年度の研究の課題を明らかにする。

【Check】 「目指す子どもの姿」の実現状況の把握と具体的な手立ての有効性についての検証

評価方法と判断の基準	評価時期	担当
教師のコーディネートが、ねらいの達成につながっていたかを、生徒の振り返りから検証する。	授業後 単元・題材 終了後	全教職員 研究主任
研究授業や授業参観ツアーで、生徒が目指す姿の具体になっているか。	6~12月授業参観、研究協議	全教職員 研究主任
学習アンケートを実施し、生徒の実態と変容を把握し、成果と課題を協議する。（各項目で4段階評価の3以上であるか）	7月（自校） 12月（県学習状況調査）	学級担任 教科部 研究部
県学習状況調査の各設問において通過率が基準を上回っているか。	12月	研究部
教師の学習アンケートを実施し成果と課題を把握する。（4段階評価で平均2.8以上）	1月	研究部